

第6回学習会を、平成20年5月23日（金）19:00～20:00 教育センターにて行いましたので報告いたします。

第六回目の内容

講師 重枝一郎先生（千代中学校教諭）

- 1 エンカウンター授業での悩み
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動

1 エンカウンター授業での悩み

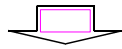
「うまくやろうとするな わかろうとせよ」

うまくいっていないと
感じる教師



イライラしている自分・攻撃的な自分・生徒を責めている自分
内罰的になっている自分・動揺している自分
困難を感じている自分

自覚する



前に進むということは、そういう自分を生徒に語ること。
語りながら反応を見て、さらに前に進むことが「自分の世界」をつくっていく。

「うまくやろう」 → 「生徒理解」に シフトチェンジ

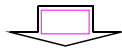
ここから教師と生徒のエンカウンターが始まる。

のれない生徒



気づまり・緊張感・不安感・不自然さ・抵抗・反発

自覚している



そんな自分を意識させる。生徒はそんな自分とつき合うのはつらい。
それを和らげようとしながらリレーションをつくりはじめる。

※授業での悩みやジレンマ、自分の苦手な部分を、とりあえず形だけ整える方向ではなく、きつちりと向き合い自覚すること。うまくやろうとせず、自分の心を語ること。例えば、授業中に生徒がおしゃべりをして、イライラするのであれば、「やりにくいよ、その態度」と本音で語る。そこで、自分の世界が出来る。生徒も自覚している。それをはっきりと意識させる。実は生徒も、そんな自分とつき合うのはつらいと思っている。

「のれない生徒」の様々な反応例

(1) 敏感すぎる反応

しゃべりすぎ／声がでかい／恥ずかしさを強く訴える／他のグループの人に視線

(2) 攻撃的な反応

「何でこんなことをするの？」／「わからん」連発／攻撃的な物言い

(3) ワークシートに見るおざなり反応

とおりにっぺんでアイメッセージがない／なぐり書き／書く量が少ない

(4) 向き合わない反応

横道にそれる／理屈っぽい展開／話を切る・方向を変える

(5) 確かな抵抗

無言／うつむき／机に伏している／いすの背もたれに寄りかかっている／表情がない
話し手を見ない／自分は動かさず人が来るのを待っている／あからさまに反発・不快の言動

対 応

(1) (2) →レディネス不足・インストラクション不足・会話風になっていない
わかりやすい自分の言葉で長くない教示
デモンストレーションで生徒の感情を変える

(3) → モチベーションの低さが原因・インストラクションの中での工夫
リーダーが自分を語るエピソード

(4) → そこに起きている事実のみを指摘する・短くズバツと注意
(5) にも共通

(5) → カウンセラーの基本的な5つの技法を使う
受容・質問・くり返し・支持・明確化

シェアリングのとき、一言でも話をさせたりすることで、気持ちが楽になる

☆「聴く」のイントロ

ポジティブリスニング

- ①ハーリスの3ない
- ②ボディリスの3く
- ③リターンリスニング
- ④クエスチョンリスニング

「人の話を聴くことで人生の80%成功する」

※コミュニケーションの基本は「聴く」ことである。

エンカウンター授業に限らず、教科の授業やあらゆる場面で、「聴く」ことを重視する。そのため、日頃から生徒と「暗号」でやり取りできるくらい、意識付けしておく。

「聴く」ときには必ず「ポジティブリスニング」をすることを約束しておく。また、場面によって、①～④を使い分けるよう、しつけておく。

①ハーリスの3ない

「ハーリス」とは「ハートリスニング」の略。つまり、「心」で聴くということ。

「心」で聴くときには・・・人の話をじゃましない
人の話をさえぎらない →これが、3「ない」
人の話を否定しない

②ボディリスの3く

「ボディリス」とは「ボディーリスニング」の略。つまり、身体を向けて、身体をつかって聴くということ。話している人の方に「へそを向ける」

身体で聴くときは・・・うなづく
向く →これが、3「く」
書く

生徒は、「ハーリス」と言えば、すぐに反応できるようになる。

「3ない」は何だったかと問いかけると、「じゃましない・さえぎらない・否定しない」と答えが返ってくるようになる。

授業中、ここは絶対に聴かせたいという時に、「暗号」を使うと効果大！である。

また、「うなづく」はソーシャルスキル・トレーニングでもある。まずは、トレーニング的にやらせることで、気持ちの交流ができてくる。気持ちはあとでもよい。

③リターンリスニング

人の話を「へえー、〇〇なんだ」と繰り返す・会話にはずみをつける。

④クエスチョンリスニング

質問して引き出す。

「人の話を聴くことで人生の80%成功する」

幸せそうな人はみんな、人の話を聴いている人だと「説得」する。

2 実践ビデオ紹介

「さわやかにあいさつ」

ソーシャルスキル・トレーニングとエンカウターの融合

①せまい廊下で自分と向こうから先生、または友達が歩いてくる設定

②悪い例・良い例の両方をロールプレイングしてみる

→ぶつかる(ケンカ)・無視(気分がモヤモヤする・自分のストレス)

→あいさつする(お互いの気持ちを通わせる)

※距離感→どのタイミングだと気持ちよいか・安心感があるか

先にあいさつしたときは?されたときは?

楽しみながら、いろいろなパターンをやってみる

先生編・友達編の両方でやってみる

③シェアリング

「今日の発見」「今日の挑戦」「明日の予言」
3つのうちのどれかを発表する

実践ビデオを見て、まず気づいたことは、実際にエクササイズをやらせる前（インストラクション場面）の気負いのない、なごやかな雰囲気です。先生の話は、生徒にとって身近な話題から入っていきました。（地域ではよくあいさつしているよね。だけど、地域だけ、学校だけという、裏表のあるあいさつじゃダメだね。）→ ※わかりやすい自分の言葉で

この時に、先生の話聴く姿勢が悪い生徒がいました。重枝先生は気づいていますが、何も注意をしません。先生に「心の余裕」があり、何を優先させるかの「意図」もあります。

実際に、先生と指名された生徒と2人での、デモンストレーションがはじまりました。教室の机を少しよけさせて、狭い廊下を設定します。お互いに歩いてきます。黙って歩いてきて、ぶつかりました。「何や、おまえ」「けんかになるよね」まわりから、笑いがおきます。この頃には、先ほどの姿勢の悪かった生徒も、姿勢を正して、2人の様子を真剣に見ています。→ ※デモンストレーションで生徒の気分を変える

次は、先生がぶつかりそうになるのをよけて、先にあいさつをしました。「どんな気分や?」「いい気分」「今度は俺に、いい気分を味わわせて」 ※会話している

やりながら、どの距離感だと安心感があるか、いろいろためしています。みんなが楽しんでいる雰囲気です。→ ※レディネス充分

これなら生徒が、自分もやってみようと思うはずです。エンカウンターをやるうえで、インストラクションはかなり重要な意味をもっているのです。そのことを実感できるビデオでした。→ ※インストラクションの中での工夫

やはり、教師側の「心の余裕」が「場の雰囲気」を左右しています。楽しいムードができた時に「心の交流」が生まれるのでしょうか。姿勢の悪い生徒が、自然に引き込まれて参加したあの場面は、特に印象的です。先生から注意されて、イヤイヤながら参加するのではなく、自ら引き込まれ、自然に参加しているのです。そんな雰囲気をつくることさえできれば、「エンカウンター授業での悩み」は吹っ飛んでしまうのかもしれない。

また、ビデオの中の重枝先生は、自分でも楽しんでいるように見えます。シェアリングの中でピントはずれの発言をした生徒に対しても、軽くフォローして流しています。発言したことで参加したと、その生徒を認めています。→ ※シェアリングのとき、一言でも話をさせたりすることで、気持ちが楽になる

いろいろな生徒がいます。即効性を求めるのではなく、じわじわと効いてくるのを、余裕をもって待つ姿勢なのでしょう。教育というものは、時間がかかります。それぞれの生徒に、十何年か分の背景があるのですから。重枝先生は、「集団」を見ながら、きちんと「個」を見ている。同時に「個」を意識しながら、「集団」の質を高めようとしていることが伝わるビデオでした。（※は、前出の 対応 中の具体的実践になっている。）

重枝流雰囲気の作り方（刺激の入れ方）・・・

- 生徒がワークシートを書いているときに、つぶやく。（ぶつぶつぶつぶつ、つぶやいている）
→生徒は書きながら、聞いている。気づきにつながっていく。
- 「いいところさがし」をした時に、書いた内容がふざけているのを生徒が訴えに来たとき。
→「後でくわしく聞く」短くズバツときる。

→ふざけた内容を書いた本人が、自分から書き直す余地を与える。
だいたい修正されている。後でもう一度訴えにくることは、ほとんどない。

- 笑いが起きるような雰囲気（自分の心持ちを広くもつ対応）
→フッと盛り上がってスッと落ち着く

3 エクササイズの体験活動

「つながっているね」というエクササイズを体験しました。
2人組でシェアリングする時に、「クエスチョンリスニング」をやりました。

- ①自分の学校の先生を5人選んで、自分にとってどんな人かをワークシートに書く。
※生徒がやる時は、「あなたにとって身近な人を10人程度選んで、自分にとってどんな人か書きましょう。」（ワークシート1）
身近な10人とは、準身内（友達や先生など）・身内・世間・ペット・もの（おばあちゃんからもらったお守りやアイドルの写真など）と、生徒に説明する。
- ②「私」を中心に、5人の先生と自分を線でつないだ絵（図）を書く。
線の長さや形、向きは、自分なりに意味をもたせて書き入れる。
生徒は自由な発想で、楽しく書くと予想される。（ワークシート2）
- ③シートを交換して、クエスチョンリスニングをする。
線の意味を聞く。
- ④あらためて身近な人との関係を考えて、気づいたことや感じたことを書く。
（ワークシート3）

まず、5人を選んで「どんな人か」を書きました。自分にとって「どんな人」なのかということとは、あまり意識したことがなかったので、発見がありました。例えば、T先生は「おもしろい人」という見方は自然にしていますが、自分との関係となれば、「おしゃべり仲間・冗談を言い合う仲」となるわけです。先輩の尊敬できる先生であれば、自分との関係は「頼りになる、相談にのってもらえる人」となったり、「どんな人」を書くなかで、自分と相手との関係がはっきりみえてきました。

次に「絵」（図）ですが、これは少し悩みました。子どものような柔軟な発想力がほしいところですが、自分なりの意味をもたせて書くことはできました。きっと生徒達は、もっと楽しんで絵を書くことでしょう。（重枝先生であれば、いろいろつぶやいている場面でしょう）

シートを交換してのクエスチョンリスニングは、楽しい時間です。まず、自分以外の人がある絵を書いているのかは、見たいところです。きっと生徒も同じ気分でしょう。

どうして線が太いのか、ぐるぐる巻きになっているのか、上向きなのか、下向きなのかなど「クエスチョンリスニング」をしていくと、そこにちゃんと意味づけがしてあって、「なるほど」と納得できました。会ったことのない、その先生のまわりの先生方の雰囲気が、かいま見られるような気持ちになりました。これが「ポジティブリスニング」なのだ、ひとつのねらいが意識できました。つまり初めて会った人同士でも、ほんの短い時間でも、「クエスチョンリスニング」をすることは、相手のことを「理解」することにつながるのです。

また、普段は意識していないことを、こんな形（エクササイズ）で意識することで、気づきがあると実感しました。意識できたことで、自分の身近な人達への見方に、良い変化が見られるのだと、もうひとつのねらいを感じました。つまりこのエクササイズには、ポジティブな話の聴き方を実感することと、身近な人へのポジティブな見方の変化という、2つのねらいがあるのです。

このように、新しい「発見」「気づき」があるエクササイズだと感じました。

今回の学習会のキーワード

- 「うまくやろうとするな わかろうとせよ」
「うまくやろう」→「生徒理解」にシフトチェンジ
- ポジティブリスニング
①ハーリスの3ない②ボディリスの3く③リターンリスニング④クエスチョンリスニング
- 「人の話を聴くことで人生の80%成功する」
- Q-U hyper-Q-U
学級満足度をはかるアンケート
8/18に、開発した河村茂雄教授の講演を市内で予定している
案内は後日、改めて行う（詳しく知りたい方は事務局までお問い合わせください）

♪学習会に参加された先生方の感想♪（参加人数 38名）

- ・1時間という短い時間の中に、自分が入り入れられる内容がいっぱいあって、本当に以前から参加しておけばよかったと思いました。早速「つながっているね」をつかわせていただきます。
- ・自分がのせていない部分もあるのですが、やはりのりきれない子がいます。その子にとらわれてしまって、全体が見れなくなってしまうたり、逆に雰囲気が悪くなってしまうときがあります。その根本として、やはり「聴く」ことがあり、ビデオでもしっかり聴かせることの大切さがわかったので、「聴く」のイントロを大事にして取り組みたいと思います。
- ・「のれない生徒」への対応や「聴く」ことの話、シェアリングの視点など、今すぐにでも自分で実践しようと思う内容ばかりで参考になります。元気が出る貴重な会になっています。次回もよろしくをお願いします。
- ・自分の教育について、悩んでいたところ。生徒と一緒に考えると、楽になると思った。本当に良かった。またひとつがんばれるような気がした。
- ・ビデオを見て、インストラクションがその授業を左右すると言っても過言ではないように感じました。重枝先生の生徒をぐっと引き込むインストラクションは本当にすごいと思います。いろんな勉強をすることと、何より「自分の言葉で、自分の気持ちをストレートに生徒に伝える力」が大切なんですね。がんばります！！
- ・とても楽な感じで参加できる学習会ですね。重枝先生のしゃべり方も、聞いている人が楽になるという感じが、とてもいいです。研修のあり方に悩んでいる私にとって、先生みたいになれたらいいなあと思いました。ありがとうございました。
- ・初めて参加しました。のれない生徒の反応の仕方は、リアルに生徒が浮かんできました。生徒の反応を受け流して、あまり深く考えていないことが多いと自分は思うので、きちんと自覚して改善していきたいと思いました。
- ・この学習会は本当に楽しいです。エンカウンター技法を現在、自分の学年で道徳や学活で取りあつかい、自分達も楽しい取り組みになっています。
- ・我々の中学校では、先日Q-Uテストを実施しました。しかし、実施する意義に懐疑的な意見が多く、実際に受検している生徒達も「何のために？」と感じていたようです。ですので、8月の研修会を楽しみにしています。
- ・初めて参加させていただきました。生徒の反応による対応の仕方、とても勉強になりました。ハーリスやボディリスなど、生徒に浸透させると、授業を受ける雰囲気が変わるし、進めやすくなるだろうと感じました。